

日本英語教育学会・日本教育言語学会第53回年次研究集会 2023 年3月5日

～～複数言語連携学習～～

進む学習者！出遅れる教材！どうする教育？：統合的言語能力の動的生成・ランゲージングをめぐって

自律的ランゲージングと教育の課題 ～自律的言語学習の促進を目指して～

湯山トミ子 東京都立大学

概要

主旨： 第二報告 「学習者の声：自然発生的ランゲージング」について

動的ランゲージングの観点からの学習者と教育の役割の事例考察

- 1 動的ランゲージングの観点からの事例考察(学習者と教育制度)
- 2 教育支援と教材の課題
- 3 統合的言語能力の生成促進を図る複数言語連携学習法の提案

1 動的ランゲージングの観点からの事例考察(学習者と教育制度)

【教育制度の特徴分析】

◎**トライリンガル教育**：単言語モノリンガル型多言語学習より言語の枠を超えて学習者の言語学習歴を活かし、統合的言語能力の生成に近づくアプローチ

教育制度としてのの有益性、先端性（プラス着眼）

英語で多言語を学ぶ学習は海外多言語学習サイトの基本形態の一つ
既習英語で初修外国語を学ぶ形態は日本の他大学にも見られる

*別例 京都外大「二言語同時学習」(特色GP2005～，英語を軸に独仏西伊中蘭)を学ぶ対面型CALL授業用教材（学内限定公開）

⇒学習した言語で別言語を学ぶ学習形態（ex 既習英語で初修中国語を学ぶ）

獲得した言語能力の運用による発展は一定程度ありうる。

学ぶ言語、学ぶ対象の言語を系統的、構造的に対照化する学びとは異なる

そのままでは一対一の単言語学習の集積

⇒多言語を学んでも学ぶ言語間に関係性はなく、学習活動、成果は個別化されたまま

【トライリンガル 英語で多言語を学ぶ】

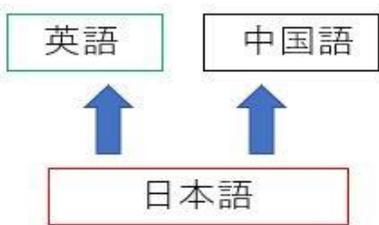
既習英語で多言語を学ぶ学習は基本的に単言語型の集積、個別の言語学習の一形態

①学ばれる言語間の関係性は不問、影響関係は意識的に認知、活用されない。

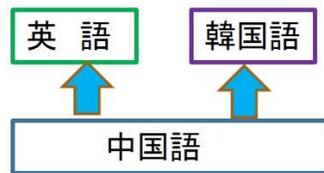
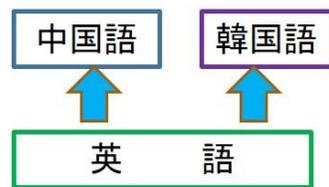
②英語で中国語を学ぶとき(英語はツール、アクセス言語)

英中両言語の習得を目指す構造的なプログラムに基づいて系統的に学べるわけではない

日本語で英語、中国語を学ぶ



英語で中国語、韓国語を学ぶ、中国語で英語、韓国語を学ぶ

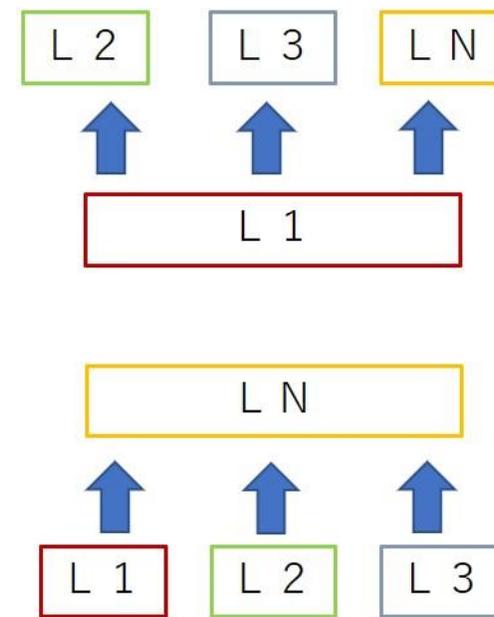


母語で複数の言語を学ぶ

習得言語で多言語を学ぶ



何言語学んでも言語別に行われる単言語学習と同じ



【学習者の内在的な言語能力の動的生成への一定の有用性】

自然発生的言語能力の動的生成（学習者自身による振り返り、気づき）を促進する契機の提供

既習言語の習得度は学習者により相違する 有用性もまた相違する。

- ・ インタビュー学習者の事例⇒言語学習が好きで、学習成果を上げている優秀な学習者
- ・ 一定数の脱落者 一定数の成功者がいる



- ・ 既習言語の運用による外国語学習は、既習言語の習得度、学習意欲により大きく影響され、習得度に相違が生まれる
- ・ 言語学習歴「母語日本語+既習英語+初修中国語」でも習得度により、統合的言語能力の状況は一律ではなく多様



教育効果も統合的言語能力の生成も影響される

【教材の問題】

教育的課題: 英語で書かれた**欧米人向けの言語教材**を使用する(母語の相違)

学習者は目標言語の特徴、理想的な言語能力を保証しない

⇒習ったからといってその言語の能力が得られているとは言えない

積み残し(未習得・未消化)課題



学習者の「言語学習歴」(母語+外国語)に即した対応への視点



構成する言語種の固有性、学習形態、学習法とともに学習者の習熟度への対応

もっとも言語能力の高い母語の有用性、活用への対応

2 教育支援と教材

【統合的言語能力の動的生成論による教育課題】

学習者の多様性: 中国語⇒得意、そこそこ、苦手等々
英語⇒やりたいけど、忘れてる！ 英語苦手等々

日本語、中国語ではこうだけど、英語ではどうなってるの？
英語のルールってどうだっけ？ 忘れちゃってる！



多様な学習者の統合的言語能力への対応は、個別性が高く、緻密な適正支援の制度的実現は困難



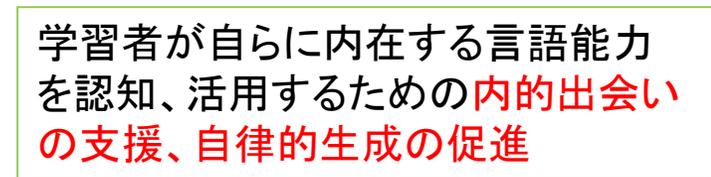
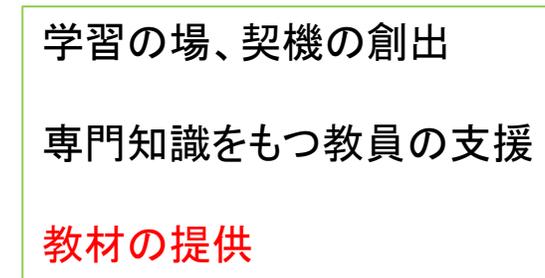
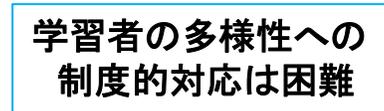
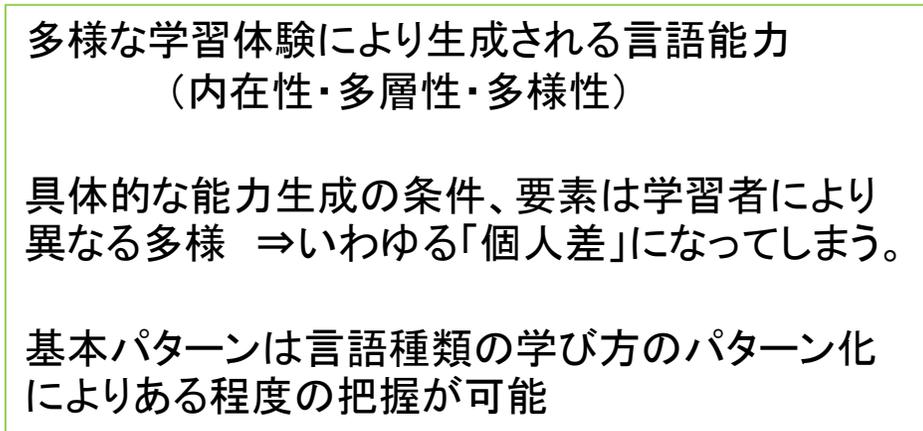
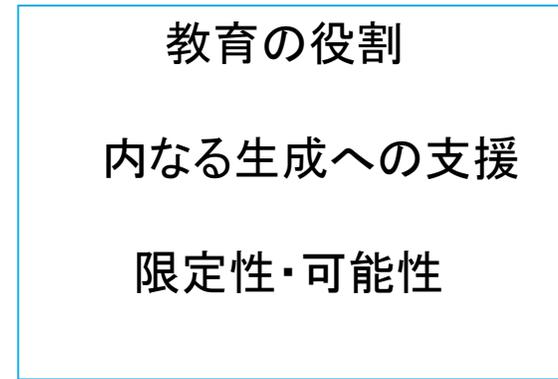
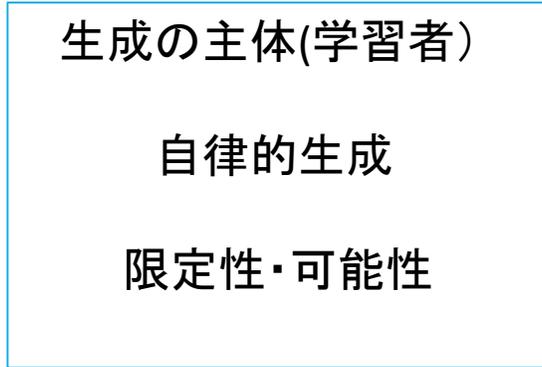
【重要】: 言語間の関係性、影響性は、言語学習の発展に正負の影響性をもつ⇒言語の固有性、固有性による学習法の正負の影響
学習歴は目標言語の特徴、理想的な言語能力を保証しない⇒習ったからといってその言語の能力が得られているとはいえない
積み残し(未習得・未消化)課題

「言語学習歴」の言語種の固有性、学習形態、学習法を明確化⇒教材に反映する



先行研究(DMM論): 統合的言語能力は学習者のすでにもっている言語能力の活性化により発展する
Dynamic Model of Multilingualism p161 2002

【統合的言語能力の動的生成ランゲージングに着目した言語学習】



【教育支援としての教材案（内容）】

- ・ 学習者の多様性への教育制度的な対応は難しい



一定の汎用性をもつ教材の提供による対応性の創出

- ・ 複数言語の 言語的特徴を理解するための認知基盤の生成促進

複数言語の特徴を対照化した構造的知識の提供

- * 習得レベルの高い学生はスルーも可能であるが基本事項の整理になり、習得度の向上が必要な学習者が容易に利用できる3言語の対照教材（三言語の構造的理解の促進）の提供
- * 既習語の習得度が高いほど、認知基盤の生成促進に必要な言語的知識の構造的な知識教材から運用学習に進行する。習得度の高い学生はメディア利用などで自律的に学習を進展させやすい（ネット利用の多言語学習）。さらにメタバースを利用したマルチリンガル運用学習用教材の提供も有用

- ・ 音声学習の身体化による言語主体の形成（言語活動主体としての意識形成）

【統合的言語能力の生成と教育の役割】

- ・ 言語の種類、制度的特徴、個人の学習特質（状況、学習者の資質、特徴、個性等）を含む多様な統合的言語能力の生成、促進



生成の主体は学習者自身

専門的知識は言語学の規範からだけでは生み出しえない。学習者における統合的言語能力の動的生成、言語間の影響性、関係性とのコラボが不可欠。



教育は専門的知識を有するものとして支援できるにとどまる。



学習者の動的生成への目覚め、自律的生成意欲を喚起する刺激などをいかに提供できるかが重要

それをどう生み出し行くか？

3 統合的言語能力の生成促進を図る 複数言語連携学習法の提案

学習者の内在的多層的な統合的言語能力を言語の壁で分断せず発揮する学習法と学習形態の創出

「言語学習歴」(母語+外国語) = (母語日+既習英+初修中) 学習者における

統合的言語能力の動的生成、認知、活用の実現

複数言語の連携学習

・個別言語の学習では、未消化となった課題も学習体験、言語能力として活用できる。

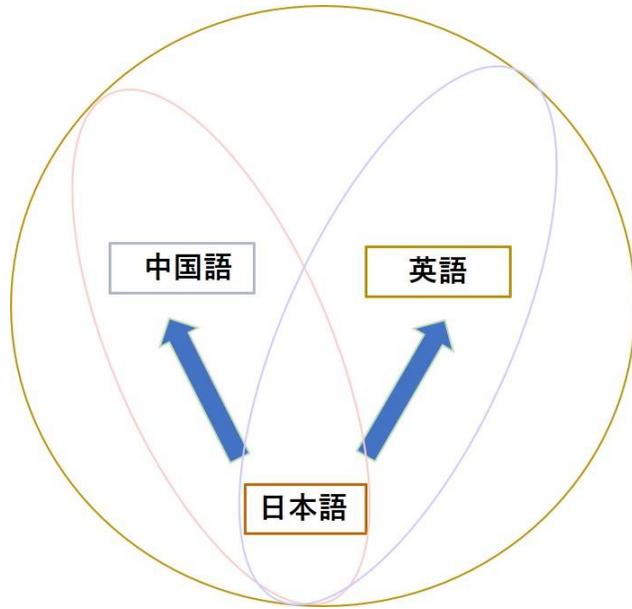
・学習言語と学習者が一対一で対峙することによる習得呪縛(プレッシャー)を解き、対照化による構造的理解により、習得課題を相対化できる。

・メタ言語意識の養成

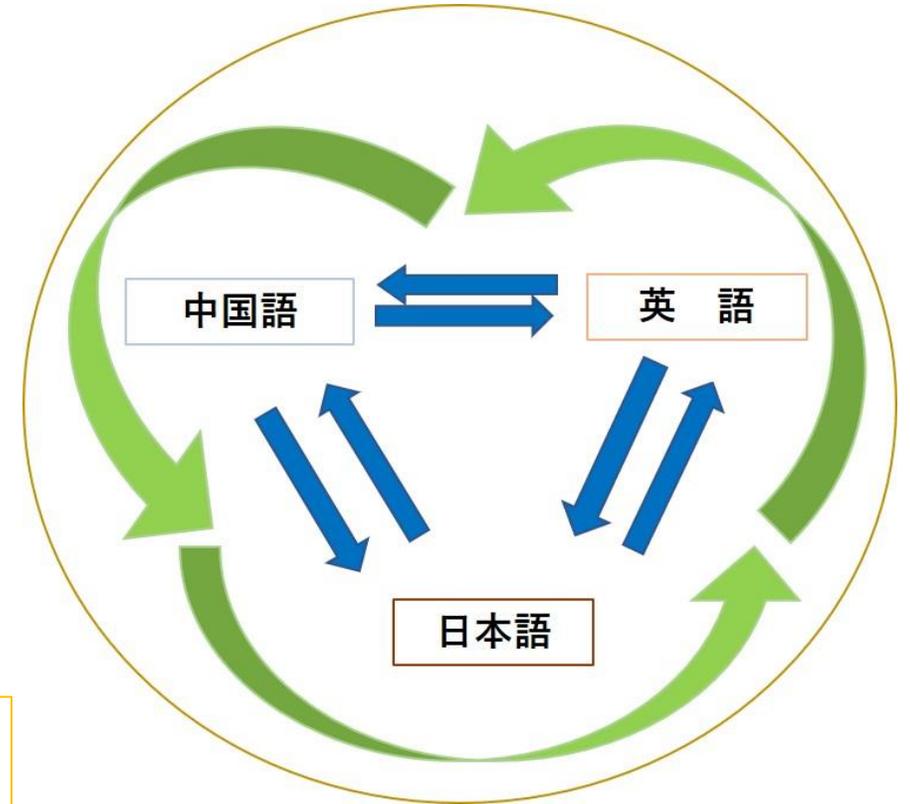
学習者の個別言語に還元しえない統合的言語能力の認知活用効果

【「言語学習歴」に着目した統合的言語能力の動的生成を目指す複数言語連携学習教材の開発】

目標イメージ図



青矢印 学習活動
緑矢印 言語能力(右図)
無表示(左図)



モノリンガル型学習

母語日本語⇒既習英語⇒初修中国語

言語の固有性、学習法、習得状況により生成

される言語能力は顕在化せず、可視化できない

日英中統合的言語能力生成の
基本メカニズム、特徴の解明

日英中の言語と学習の固有性

言語間の関係性、影響性
学習法、学習形態、習得状況

正負の影響性の明確化による教材構築

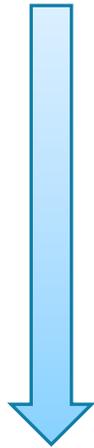
言語連携による言語学習 (ランゲージング)
言語能力の動的運用、活用

【日中英三言語対照連携型学習システム】

【開発目標】 日本語母語話者のための日中英三言語対照学習教材搭載学習アプリ

【構築法】 対照学習による連携型多言語システム

- ・ 言語構造、言語現象に対する理解力を増進
音声学習の身体化による言語主体の形成
(言語活動主体としての意識形成) 対照学習⇒個別の言語学習では得難い言語表現の共通点、類似点（普遍性）、相違点（個別性、多様性）



対照学習教材：既存の対照教材は二言語が基本

三言語以上の同時対照学習法システム（同族非同族、言語類型等の枠を越える教材は**固有**）

二言語による成果の発展、統合⇒**三言語対照の教材作成**

開拓性が高い課題

パラレルセッションで現段階での開発内容を紹介する

ご視聴ありがとうございました。